



令和4年度文部科学省ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業選定（令和4年度～10年度、7年間）

埼玉・群馬の健康と医療を支える 未来医療人の育成 Newsletter

第3号

■ 発行 埼玉医科大学／群馬大学 Saitama Medical University / GUNMA UNIVERSITY

「埼玉・群馬の健康と医療を支える未来医療人の育成事業」連携推進会議 およびシンポジウムを開催

■ 第2回連携推進会議



令和5年3月30日に、令和4年度「埼玉・群馬の健康と医療を支える未来医療人の育成事業」のシンポジウムに先立ち第2回連携推進会議がかわごえクリニックに於いて開催されました。まず、連携推進会議の出席者が紹介され、その後、事業推進大学代表校の埼玉医科大学別所正美学長及び連携校である群馬大学石崎泰樹学長からのご挨拶をいただきました。そして、事業の連携推進会議メンバーに対し、事業について令和4年度の報告を、埼玉、群馬側からそれぞれ説明し、質疑を行いました。引き続き、埼玉・群馬未来医療人育成外部評価委員会の設置に関して、そして令和5年度の事業計画の説明がなされ、各々質疑応答を交え

ながら連携推進会議メンバーと事業主務者として討議が行われました。本格的な事業活動が既に開始され、連携校、県医師会、行政、並びに連携医療機関が一堂に会して進捗及び今後の計画を確認する大変有意義な場となりました。加えて、埼玉県及び群馬県の地域医療を将来担う未来医療人の本格的な育成が始まり、大いに期待できる取り組みに関係各署の一層の協力体制推進にも役立つ場となったと思います。

■ 埼玉・群馬未来医療人育成シンポジウム ～地域で学び地域を学ぶ、地域医療の志の育成～

埼玉医科大学かわごえクリニックにて対面と Live 配信の両方の形式でシンポジウムが開催されました。本事業を象徴するロゴ最優秀者の表彰に始まり、長崎大学前田隆浩教授による「地域医療教育と暮らしを支える遠隔医療」の特別講演、埼玉医科大学と群馬大学双方の実務者から事業概要、教育プログラムの紹介、連携体制と今後といった内容をお届けいたしました。事業関係者はもとより、埼玉・群馬両県への案内にて、興味のある高校生や学校教諭にも参加いただき、本事業を多くの方に知っていただくための良い機会となったと思います。



本プロジェクトで大切にしていること vol.3

埼玉医科大学副医学部長 事業推進プロジェクトサブリーダー 林 健

医学教育は大学では完結できないことの認識 — 地域医療機関の先生方に感謝 —



私たち医師は「今、ここ」の医療ニーズを意識し、そのニーズに応えることに多くのエフォートを充てています。そのため、若い医師にも「今、ここ」で実力を発揮できるようになることを期待し、そして教育していると思います。たとえ自分を越える実力を期待するとしても、それは親クマが自分より強いクマになるべく子に狩りを教えるようなものかも知れません。

ただ、地域枠医学生は「今、ここ」ではなく「20年後、地域」で実力を発揮できるようにならねばなりません。医学も医療環境も20年後には大きく変わっているでしょう。活躍する場も、大学ではなく地域医療機関である可能性が高いと思われます。先ほどの例で言えば、地域枠医学生が活躍する場合は、生まれ育った森の中ではなくサバンナかも知れません。そのためには、優秀なクマになるための教育ではなく、強いライオンなるべく教育されるべきでしょう。少なくとも、サバンナでの経験は不可欠です。

大学には豊富な人的資源や恵まれた教育環境がありますので、医学教育は大学医学部を中心に行われるべきです。ただ、将来的な活躍の場と同じような場で、現にそこで活躍している医師に教えてもらうことは、何より大切です。先ほどの例で言えば、森でクマに教えてもらうだけではなく、サバンナで本当のライオンに教えてもらう経験が不可欠です。

本プロジェクトでは、今までにないほど地域医療機関の先生方にご協力をいただいています。地域医療ニーズに応えるべく日々本当に忙しくしていることは重々承知しております。そのような中、かなりのご負担だと思います。そのことに思いを巡らせ、恩返ししていくマインドを維持することを、何より大切にしたいと思います。

令和5年度開講のプログラム紹介（埼玉医科大学）

プログラム1：地域医療とチーム医療1（群馬大学との合同実施）

埼玉医科大学 医学教育センター 助教 **金田 光平**

本プログラムは群馬大学の「はじめて学ぶ地域医療」との合同実施で、埼玉医科大学と群馬大学の教室をZoomで繋ぎ、実施しています。1回目は「かしこく健康に生きる」をテーマに、群馬パース大学教授、群馬大学名誉教授 田村遵一先生、2回目は「ヒューマンケアを基盤とした人の暮らしを支える専門職連携」をテーマに、埼玉医科大学医学部医学教育学教授 柴崎智美先生が講義されました。受講者は埼玉医科大学医学部1年生と群馬大学は3学部の1年生の計200名弱で、Zoom越しではありましたが、両者が互いに手を振りあうなど暖かい交流の場面も見られました。

講義は多領域の学生と一緒に受講して理解できるよう工夫されており、学生はメモを取りながら真剣に聴講していました。また、質疑応答では双方の大学から質問することもあり、活発な議論が行われました。合同実施はあと2回予定されており、それぞれ地域・地域医療の課題についてグループワークを行い、その成果をお互いに発表し、理解を深める場となることを期待しています。



プログラム3：地域医学・医療学入門

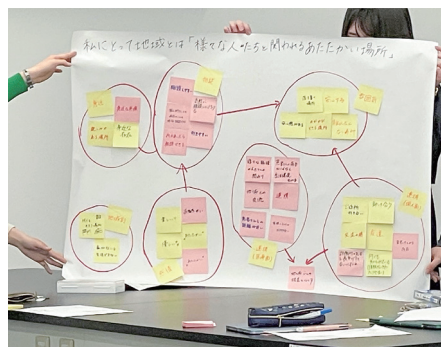
埼玉医科大学 医学教育センター 准教授 **井上 直子**

本プログラムは、1・2年生の選択・必修科目で、埼玉県の地域枠入学生と地域医療に関心のある学生が参加しています。

プログラムの目標は、「地域に愛着を持つためのひとつの方法として、地域を深く理解するための手法である地域診断のスキルを体験する。」です。

地域におけるひとの暮らしに関心を持ち、実際の地域でおこっていることについて統計資料や地区踏査を通して、地域の課題を自ら考えられることを目指しています。埼玉県内の様々な自治体を調査し、将来、医師として様々な保健・医療・福祉の課題に立ち向かう実地臨床家や厚生行政で活躍する医師となる礎を学んでいきます。

さらに、演習では秩父地域で活動する医師からの具体的な活動の講義を受けました。学生にとっては、とても新鮮で、自分たちの将来の夢を描けた時間となりました。これからも、医師として地域を理解することの意味をお互いに学びあっていきます。



事業概要紹介動画を公開しました

事業概要の動画をホームページに公開いたしました。約12分の動画となりますので、ぜひご視聴いただき、当事業へのご理解・ご関心を深めて頂けると幸いです。



・動画ページ <https://sgmirai.jp/report/idx06.html>

※パソコンからの視聴を推奨いたします。

令和5年度 シンポジウムのお知らせ

令和6年

2月29日(木)

会場：レイボックホール

(さいたま市民会館おおみや)

※ウェビナー併用予定

※詳細が決まりましたら、ホームページでお知らせ致します。



埼玉・群馬の健康と医療を支える未来医療人の育成 Newsletter 第3号

編集・発行：埼玉・群馬の健康と医療を支える未来医療人の育成事業事務局

住所：〒350-0495 埼玉県入間郡毛呂山町毛呂本郷38

T E L：049-276-1109

発行日：2023年06月

E-mail：sgmirai-smu@saitama-med.ac.jp

URL：https://sgmirai.jp

無断転載禁止

